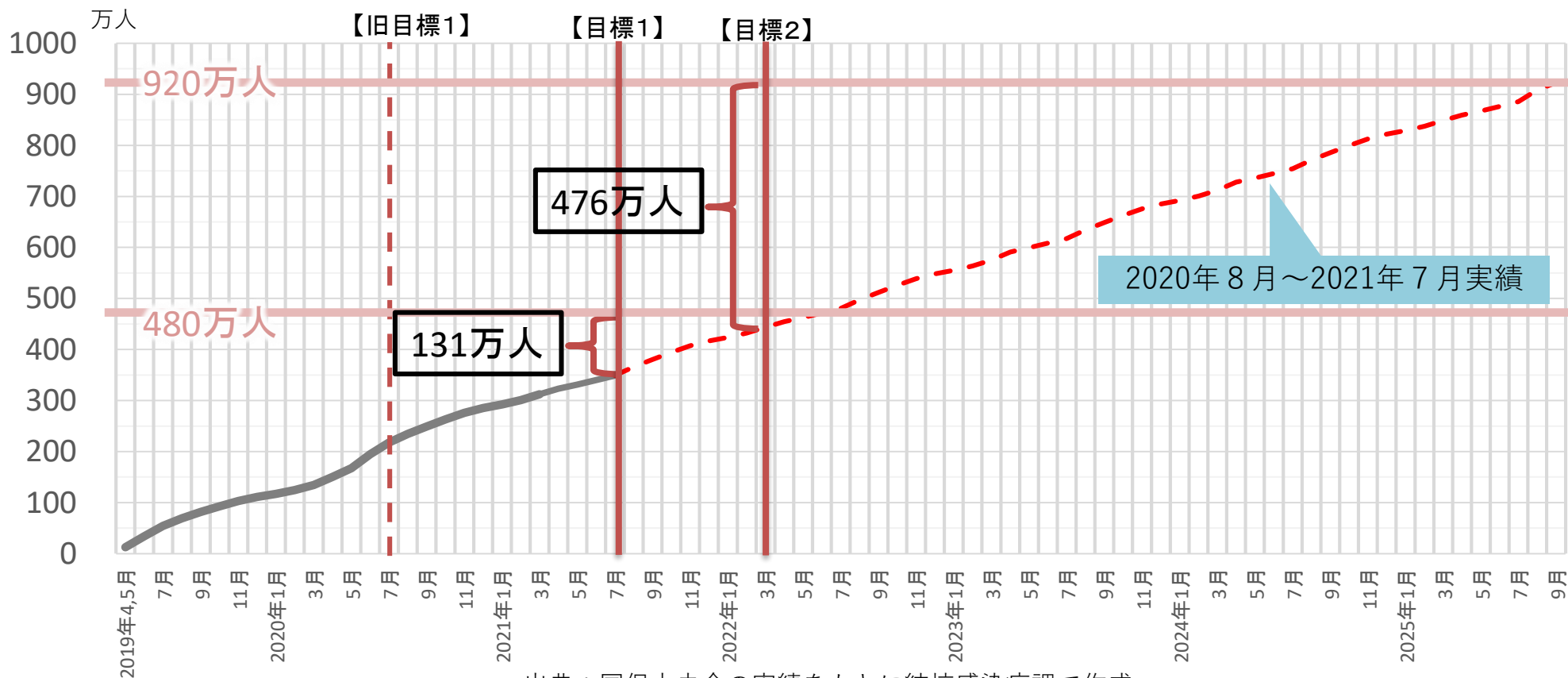


風しんの今後の対応について

風しんの抗体検査の実施の見込み(推計)

- 目標1(2021年7月)を達成するには131万人必要。目標2(2022年3月)を達成するには476万人必要。
- 直近1年間(2020年8月~2021年7月)の実績で今後の推計を行った場合、目標2の920万人の達成は2025年9月。
- 今後の推計に関して、上振れと下振れする要因として
 - ・上振れ要因：新型コロナウイルス感染症による医療機関の受診控えからの回復や積極的な健診での抗体検査の実施。
 - ・下振れ要因：新型コロナウイルス感染症に伴う受診控え又は健診での抗体検査の実施不足。等があげられる。



風しんの追加的対策の今後の対応について①

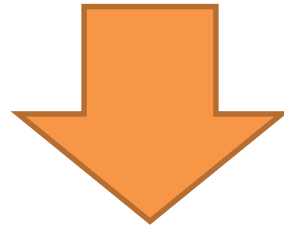
<現状>

- 抗体保有率が低い昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれ（令和3年度42歳から59歳）の男性に対し、
 - ① 予防接種法に基づく定期接種の対象とし、令和元年度から令和3年度まで（3年間）、全国で原則無料で定期接種を実施
 - ② ワクチンの効率的な活用のため、まずは抗体の有無を確認をすることとし、全国で原則無料で抗体検査を実施
 - ③ 事業所健診の機会に抗体検査を受けられるようにすることや、夜間・休日の抗体検査・予防接種の実施に向け、体制を整備
- 令和3年7月までに抗体検査を3,365,880件、予防接種を713,660件実施。
- 2020年度の感染症流行予測調査では、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれ（令和3年度42歳から59歳）の男性の抗体保有率は85%に達していない。
- 大企業を対象とした調査では、従業員に対する風しんの抗体検査の実施方法については、風しん担当責任者も産業医も、健康診断の機会に抗体検査も行いたいとの回答が最多。
- 健康診断の機会に抗体検査を行った割合は約28%となっている。
- 目標1（2021年7月までに抗体検査480万人・予防接種100万人）は未達成となり、目標2の2022年3月までに抗体検査920万人・予防接種190万人も達成することは困難な状況。

風しんの追加的対策の今後の対応について②

< 課題 >

- 目標の抗体保有率に達していないことから今後、風しんの流行の可能性がある。
- 目標 1 及び 2 を達成するためには、風しんの追加的対策の延長が必要。
- 2020年 8 月～2021年 7 月実績のまま推移する場合、目標 2 を達成するためには、約 3 年半の期間が必要と考えられる。
- 風しんの流行が発生する前に早期に目標を達成し、抗体保有率を上げる事が求められるが、風しんの追加的対策の促進策が必要。



< 論点 >

- 新型コロナウイルスの感染状況、健康診断の実施状況、風しん対策の進捗状況等を踏まえ、当初目標 1 及び 2 の達成時期及び目標についてどのように考えるか。
- 対象者（昭和37年 4 月 2 日から昭和54年 4 月 1 日生まれの男性）の多くは被用者であることから、目標達成のために職場の定期健康診断での抗体検査をどのように強化していくか。